

(別紙)

令和元年度花き研究シンポジウム
「国産シェア奪還に向けたキク類生産・流通の方策」

1. 開催趣旨

日本の切り花生産の基幹品目「キク類」を主な対象に取り巻く情勢の変化について情報共有を図るとともに、輸入品に対する競争力強化と国産シェア回復を目指すために必要な方策について討議する。また、新たなニーズに対応した品質向上・安定供給技術体系等の確立を目指し、明らかになりつつあるキクの開花制御機構に関する講演を行い、その理解に基づいた技術開発の展望について討議する。

2. 主催

農研機構 野菜花き研究部門

3. 開催日時

2019年11月6日(水)～7日(木)

4. 開催場所

茨城県つくば市竹園 2-20-3 「つくば国際会議場」(エポカルつくば) 3F 中ホール 300

5. プログラム

1日目(11月6日)

13:00～13:10 開会挨拶

1. 国内キク市場の現状と展望

13:10～14:00 キク類流通の課題と産地のとるべき戦略

山本大介(株式会社日本総合研究所)

14:00～14:25 量販店事業者の現状と国産品・輸入品選択のポイント【関東の事例】

日巻賢二(株式会社メルシーフラワー)

14:25～14:50 量販店事業者の現状と国産品・輸入品選択のポイント【関西の事例】

上野和人(株式会社フローリスト・コロナ)

(休憩 10分)

2. 実需者ニーズに対応した国内産地の取り組み事例

15:00～15:25 アジャストマムの取り組み

園 公一(ACF協議会)

15:25～15:50 スマートフラワーの取り組み

大西克典(フラワー需給マッチング協議会)

15:50～16:15 キク切り花の品質保持技術の活用による特異需要期供給

東 明音(クリザール・ジャパン株式会社)

3. キク類の国産シェア奪還を目指すために必要な方策

16:15～17:00 パネルディスカッション

進行: 中山真義(農研機構)

2日目(11月7日)

4. キク類の生理生態特性の理解に基づく技術開発

9:00～9:50 キクの生態特性の理解から安定効率生産へ

久松 完(農研機構)

9:50～10:40 キクの光周性花成メカニズムとその理解に基づいた電照技術

樋口洋平(東京大学)

(休憩 10分)

10:50～11:40 キクの高温開花遅延のメカニズムとその理解に基づいた対策

中野善公(農研機構)

11:40～11:55 総合討議

11:55～12:00 閉会挨拶